

洛友会会報

京都大学工学部電気系教室内
洛友会
〒606-8202
京都市左京区田中大塚町49
075-701-3210

レオナルド・ダ・ヴィンチと

創造性開発



北陸支部長 中島 恭一 (昭40年卒)



最近、レオナルド・ダ・ヴィンチの絵画をめぐる謎を題材にしたミステリー小説「ダヴィンチ・コード」がベストセラーとなり話題となつている。ダヴィンチは言うまでもなく「モナリザ」や「最後の晩餐」といった歴史に残る名画の作者であり、15世紀から16世紀にかけてイタリアで興ったルネサンス運動の中心的存在である。彼の興味は芸術に限らず、科学や技術、人体解剖学に及び、数千点に及ぶといわれる自然や技術に関する

観察やアイデアを示すスケッチや数千頁に及ぶ膨大な手稿を残している。機械技術、土木・建築技術、軍事技術をはじめ、交通機関の創造にも及ぶ広い領域でおびただしい数の技術アイデアを泉の湧き出る如く産み出している。こうした技術アイデアを当時の諸国家へ売り込む様子を示す手紙なども残っており、今言う技術ベンチャーの端りともいえる。16〜17世紀におけるガリレオ、コペルニクス、デカルト、ニュートンなど天文学や近代力学の発達、18世紀の産業革命を経て近代科学技術の確立へとつながるが、ダヴィンチはその端緒を切り開いた「近代科学技術の草分け」とも呼ぶべき存在である。

私が現在勤める富山県立大学では、ダヴィンチの残したスケッチ

を元に、彼が考案した様々な機械の木製模型復元に取り組んでいる。神谷和秀講師と父の神谷長幸さんが約十年前から、ダヴィンチの手書きスケッチだけから設計図を描き、模型製作をこつこつと続けて、現在では70点に及んでいる。これほどの復元模型はイタリアでも見られないといわれる。

当時は石油、ガス、電力のような動力源がまだなかった時代であり、風力・水力・火力・重力・筋力といった自然力を効率的に使ったり、歯車やネジを巧妙に使った機械を考案している。今日のクレインやエレベータの原型ともいえる機械や肉を均等に火であるる機械といったユニークなものもある。科学技術が未開拓の時代にあつて、当時の社会ニーズに機敏に応えて、技術創造に取り組んだダヴィンチの旺盛な好奇心と創造意欲は500年の時を超えて、現代の我々にも訴えかけてくるものがある。

富山県立大学では、学生が毎日通る通路の一角に「ダヴィンチ・コーナー」を設け、模型を陳列して自由に触れるようにしている。ダヴィンチのアイデアに日々接しながら、自らに眠る知的好奇心と創造意欲に呼び覚まして、一人でも多く技術創造にチャレンジしてほしいという思いからである。また、毎年夏に小中学生をはじめ若者に科学技術に親んでもらう行事として「ダヴィンチ祭」を開催し、これらの模型に触れて、動かせるコーナーが好評を得ている。最近では、様々な教育機関や科学技術関連機関からの展示依頼も多く、若者の理科離れ防止や創造意欲増進にも役立てばと積極的に応じている。今年8月には科学技術振興機構の科学技術館でも展示される予定である。

ダヴィンチはまた鳥の飛翔をつぶさに観測し、人間が空を飛ぶのに必要な翼の長さを計算して「羽ばたき飛行機」を考案した。人間の筋力不足のため実際に空を飛べなかつたが、ライト兄弟が2003年に動力飛行に初めて成功する400年も前に飛行機の原理を考えたことは驚くべきであろう。鳥の飛翔を観察する様子は彼の手記に書かれているが、その鋭い観察力・洞察力と好奇心は目を見張るものがある。鋭い観察に基づく洞察や好奇心は創造性発揮の要件であるが、人間の五感を超えた観察手段が発達した今日にあつても学ばべきことであろう。

創造性開発のもう一つの要素にセレンディピティがある。これはセレンディップ王国の3人の王子の寓話から生まれた造語である。「偶然からモノを見つけ出す能力」(角川書店)の著者である沢泉重一氏(富山県立大学客員教授)によれば、セレンディピティは偶然と察知力を生かせる能力であり、歴史上の発明・発見にはこの能力を生かしたものが多いいという。セレンディピティの活躍の場は、科学技術に限らず、芸術や文学をはじめ、趣味の世界における身近な創造性発揮にもみられるという。ダヴィンチもまたセレンディピティを大いに発揮したことを想像するに難くない。富山県立大学では沢泉氏の協力を得て、セレンディピティも含む大学院と社会人向けの講義「創造性開発研究」を開講する予定である。次代の科学技術を担う若者に創造性発揮の動機づけになればと期待している。

勿論、観察力・洞察力やセレンディピティを生かした創造性発揮の前提として、基礎学力や広い視野が必要なのは言うまでもない。しかし、最近の日本における若い世代の基礎学力が心許ないのである。若者の「理科離れ」を反映して、数学や理科の学力や学習意欲の低下が目立っており、いくつかの国際的調査でも実証されている。文部科学省の学習指導要領の改訂に伴い、来年から新課程で学習した学生が大学に入学する。昨年、本学の教員が富山県の高校を中心に新課程での教育状況を調

査したが、理科や数学での高校では教えないで、積み残される内容が目立つと共に、高校間での教育内容でのばらつきがかなり見られる。大学での基礎教育の内容や方法を直さなければならぬ厳しい状況といえる。

今年2005年はアインシュタインが歴史的な3論文を1年の間に一挙に発表した「奇跡の年」から丁度百年目にあたる。国際連合は今年を「世界物理年」と定め、科学技術の進歩について振り返り、また今後について考える記念行事が世界各地で行われている。ダヴィンチから500年間で科学技術は進歩し、とりわけこの100年間では飛躍的發展がなされた。この間の社会発展とりわけ経済発展を対比してみると、科学技術の発展はまさに社会発展の原動力になってきたことは疑いなく、将来においてもそうであろう。

21世紀では、自然環境とも調和した持続可能な循環型社会の実現や安全・安心で豊かな人間生活の創造が課題となっており、そのための科学技術の創出と産業の発展が必要となっている。次代を担う若者が一人でも多く科学技術に関心をもち、創造力を発揮して新しい課題に挑戦することを期待している。そのための環境整備と人材育成、とりわけ基礎学力の強化と

創造性開発が強く求められているといえよう。

大学の動向

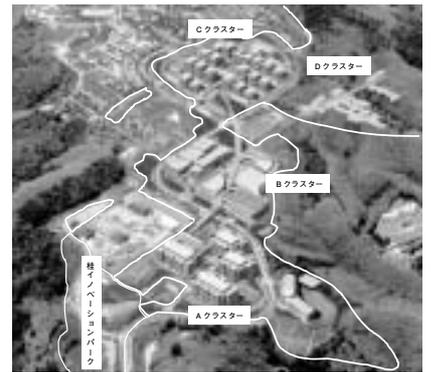
桂キャンパスの現況

工学研究科長・学部長

荒木 光彦(昭41年卒)

京都大学では、21世紀の国際社会をリードする「エクセレント・ユニバーシティ」として各分野で社会に貢献していくべきであるという方針の下に、「優れた教育・研究の実践」および「絶えざる革新への対応」が可能となる「環境と人に優しく、固有文化と調和するキャンパス」を目標として施設整備を進めています。その一環として、京都市の御陵地区に土地を取得し、新しく「桂キャンパス」を構築しています。桂キャンパスには工学研究科と情報学研究科が移転する予定であることから、「Technology」と「Science」が融合する「テクノ・サイエンス・ヒル」が整備の基本コンセプトとなっています。

図①にあるように桂キャンパスは、A、B、C、Dの4クラスター総計37haからなります。この中、Bクラスターは敷地中央部分に位置し、桂キャンパスのシンボルである時計塔を中心として、事務棟、



図① 桂キャンパス平面図

インテックセンター、福利厚生棟、図書館、講堂などを有するキャンパスの中枢部分です。一方、A、C、Dの3クラスターには研究棟が配置され、大学院教育および工学・情報学の研究の場となる予定です。

現在までのところ、Bクラスターでは、事務棟、インテックセンター、およびレストラン・カフェ・保健管理センターなどからなる福利厚生棟が起動しました。この中、インテックセンターは、分野間の学際的研究や産官学共同研究を推進する目的で建てられたもので、大型構造物を必要とする実験が可能なシミュレーションラボを始め、各種の実験の場が準備されています。インテックセンターに隣接して、低温物質科学センターの桂分館が建てられており、本年度からヘリウム液化機が稼働

働します。また、福利厚生棟のフレンチレストラン「ラ・コリーヌ」は近隣の方々の来店も多く、前日予約をしておかないと昼食がとれない程の賑わいをみせています。

一方、研究棟については、Aクラスターに工学研究科化学系6専攻および電気系2専攻、Cクラスターに建築学専攻が移転を完了し、研究活動を開始しています。電気系2専攻の教室・研究室などはA1棟と呼ばれる建物にありま



図② A1棟正面玄関

す。A1棟は地下1階地上4階の建物ですが、桂キャンパスが丘陵地であるため正面玄関は3階になっています。図②の写真にあるように、長尾先生による「有志者事竟成」の書が掲げられています。Aクラスターの飛び地のローム記念館も完成し、国際融合創造セン

ターを中心として、産官学連携および知的財産関連の活動が進められています。将来的には、Cクラスターに工学研究科地球系3専攻が来年度に夏頃に移転し、さらに同クラスターに物理系6専攻が、Dクラスターに情報学研究科の建物群が建てられていく予定です。また、Bクラスターに講堂等に使用される予定の船井記念館(仮称)が出来る予定です。すべての建物が建設され、移転が完了した時点では、教職員約1000名、大学院生および学部4回生約3700名、総計4700名となります。さらに、桂キャンパス南側の隣接地には京都市のイノベーションパークが設置されており、これらを合わせて桂の地に先端科学技術の一大研究拠点が完成します。

工学研究科化学系、電気系およびインテックセンターはすでに2年弱活動しているわけですが、その中では「学域統合による新材料科学の研究拠点」、「京都大学化学連携研究教育拠点」、「電気電子基盤技術の研究教育拠点形成」、「動的機能機械システムの数理モデルと設計論」の4つの21世紀COEプログラムの研究が実施されてきました。また、イノベーションパークでは科学技術振興機構の研究成果活用プラザ京都および中小企業基盤整備機構の京大桂ベンチャ

ープラザが完成しており、すでに先端的研究および産官学連携の拠点としての役割を果たしつつあります。

教室だより

長尾真先生

2005年度

日本国際賞受賞

松山 隆司(昭49年卒)

受賞理由

「自然言語処理

および画像の知的処理に

対する先駆的な貢献」

日本国際賞は、科学技術において独創的・飛躍的な成果を挙げ、科学技術の進歩に大きく寄与し、人類の平和と繁栄に著しく貢献したと認められた人に贈られるもので、昭和58年創設に際しては、閣議において関係行政機関が協力して実施することが了解されています。

今回は、情報・メディア技術と細胞生物学が選考対象分野となり、長尾先生を含めて3名の方が選ばれ、4月20日に、天皇、皇后両陛下、衆参両院議長、最高裁長官のご臨席のもと、授賞式、祝賀パーティが催されました。

今回の長尾先生の受賞は、先生

が京都大学工学部電気系教室において長年研究を進めてこられた、言葉の解析や自動翻訳、人の顔や航空写真の解析・認識、電子図書館システムなど、人間的な情報処理の実現を目指した知的な情報メディア処理に関する先駆的研究によるものです。

平成16年度電気電子工学系

進学・就職状況

電気電子工学科長 島崎 眞昭
電気工学専攻長 大澤 靖治
電子工学専攻長 鈴木 実

平成16年度の就職の世話は、電気工学専攻および電子工学専攻の大学院学生については学科長とそれぞれの専攻長が、学部学生についてはこの3名と佐藤亨副学科長が、情報学研究科の通信情報システム専攻の大学院学生については高橋達郎専攻長が担当いたしました。なお、16年度は学科長と電気系専攻長の本拠地が桂キャンパスであったこと、工学部3号館の改修があったことなどのため、吉田キャンパスには副学科長がおかれ

ました。16年度も電気系への求人40社以上と、例年どおりの依頼をいただきました。電気電子工学の出身者に対する社会からの期待に応えることのできる学生を育成し

ていく責務の重さを感じるとともに、推薦の依頼に応えられなかった多くの企業にはお詫び申し上げます。引き続きご支援をお願いする次第です。

会社からの求人の特徴としては、自由応募制をとる企業が引き続き増加傾向にあるということと、大きな企業では予め志望する部門とのマッチングをとることを求めるところが増えてきていることが挙げられます。電気電子に対する求人形態としては、自由応募か学校推薦かを明確にしていた企業に對して就職の世話をいたしました。自由応募制の会社を希望する学生は早くから動く必要があることから、前年度の例にならって1月(修士1回生)および2月(学部3回生)に第1回の進路ガイダンスを行いました。マッチング制については、各部門に対する適応性を十分判断できるといふ会社側のメリットがある反面、大学側としては、マッチングの成立数と学校推薦枠との整合性において若干気遣う面がありました。また、学校推薦の意義が薄れつつあることを認識いたしました。

学生の希望の特徴は、関西系の自動車会社のメーカーならびに一部の総合電機メーカーの気が低

下しており、企業の実績に比較的敏感に反応しているように感じられました。希望が集中した企業については、学内での面接結果などを参考に調整を行いました。また、志望企業にどうしても就職したいという意志が変わらず、かつその会社にふさわしいと判断した学生には、推薦しても不採用になる可能性がかなりあること、不採用になっても自身の責任であるということを確認した上で、推薦枠を超えて推薦状を出した会社もあり

りました。学部学生については、4回生になつたばかりで、まだ社会に出て働くということについての自覚が十分でないと思われる学生も散見され、そのような学生はやはり面接でうまくいかないというケースがありました。第1志望の会社で不採用になったため、修士への進学に進路を変更した学生も何名かおりました。しかし、全般的に見て、以前よりも面接試験に対する心構えのないし準備ができてきて

平成16年度卒業生進学就職状況

工学研究科(電気工学、電子工学)、情報学研究科(通信情報、知能情報、システム科学)、エネルギー科学研究科(エネルギー社会・環境科学、エネルギー基礎科学、エネルギー応用科学)、電気電子工学科

修了、卒業生数	修士	学部	進学・就職先
進	5		京都大学博士課程工学研究科電気系
	4		京都大学博士課程情報学研究科
			京都大学博士課程エネルギー科学研究科
		61	京都大学修士課程工学研究科電気系
		41	京都大学修士課程情報学研究科
		7	京都大学修士課程エネルギー科学研究科
		2	東京大学修士課程
		1	その他
計	9	112	
官公庁等			
電気関連	47	5	日新電機、ホロンシステム、三洋電機、三菱電機、ITS、古野電気、ソニー、ソニーLSIデザイン、松下電器産業、松下電工、NEC、NEC化合物デバイス、住友電工、日立製作所、キーエンス、シャープ、ローム、日本IBM、村田製作所、東芝、浜松ホトニクス、富士通研究所、日本オラクル
通信	11	2	NTT西日本、NTTドコモ、NTTドコモ関西、NTTコムウェア、NTTデータ、KDDI、NHK、フジテレビ、日本テレビ
電力・ガス	6	2	関西電力、東京電力、中部電力、四国電力、北陸電力
機械・自動車	20	1	トヨタ自動車、三菱重工、堀場製作所、本田技研、川崎重工、リコー、鳥津製作所、日産自動車、キヤノン、コニカミノルタテクノロジーセンター、ニコン、新日本製鉄
鉄道	3		JR東海、鉄道総研
金融・商社等	8		北斗特許事務所、三井物産、野村証券、住友商事、モルガン・スタンレー、アクセンチュア、オリコム
未定・研究生・帰国	1	4	
計	96	14	

るようです。改善されつつあるとは言いながら、なお厳しいここ数年の就職状況を反映しているものと思われまます。

過年度生で卒業のめどがつく時期が遅れたため、就職先が決まるのも遅かった学生がおりましたが、結果的には就職希望の学生はほぼ100%就職することができました。平成16年度の学部卒業者数、修士課程修了者数と進学状況ならびに就職企業名を表に示しました(空欄は0名)。

会員寄稿

私の道楽

増岡 健一 (昭21年生)

「ご趣味は何ですか」と聞かれると「合唱です」と答える。忘れ得ぬ第一回の感動。福岡3000人の「第九」。一期一会、人との出会い、別れ、様々な人間模様。昭和62年1月のことであった。それまでは謡曲40年、小唄20年の邦楽が趣味と言えるもので、謡いは教室在学中に記憶は確かではないが、吉田の○○会館で観世の手解きを受け、社会に出て師匠についても、小唄も30年代の所謂「三ゴ」の波で仕事上半強制ではじめ名取となり続いていた。前記の演奏会の練習期間の途中で、音楽好

きの部下から「男声」が足りないのと勧誘を受け、洋楽は小学校以来やっていないので、お玉杓子は駄目と固辞したが、何とか歌えるようにしてくれるそうですの言葉に重い腰を挙げて参加したのが運のつき。シラーの詩にヴェートーベンが晩年の力をこめて曲をつけた「交響曲第九番・歓喜に寄せて」である。ドイツ語には殆ど抵抗は無く、辞書を片手に文意もほぼ理解できたので、後はメロディと暗譜のみとなり、ゴルフの行き帰りを初めとしてあらゆる機会を捕らえてテープを聞き懸命に勉強した。いよいよ本番。会場の国際センターからあふれるほどの観客。指揮者石丸寛先生の入場、拍手が静まり先生の指揮棒が降り下ろされる。第一楽章、第二楽章、ソリストの入場、第三楽章、第四楽章、いよいよ出番、バリトンの人が立ち上がる。我々も一斉に立つ。ライトが当たる。心臓が高鳴る。後にはもう無我夢中、長い練習の成果を發揮するだけ。精いっぱい歌った。演奏が終わった瞬間、割れんばかりの拍手の嵐と喚声、こみあげてくる感動、胸は熱く、涙はあふれ、こんな感動は初めての体験である。なり止まぬ拍手。国際センターが揺れ動いているようであった。ヴェートーベンの偉大さ、第九の荘厳さを痛感する私であっ

た。その時思った。戦時下の灯火管制の中、戦地へ赴く文系の友人と炬燵布団を手回しの蓄音機にかぶせ、ヴェートーベンの「運命」を聞きながら別れを告げたことを。当時は警防団の見回りがあり、洋楽の音楽を聞き付けるとたちまち敵性音楽ではといちゃもんをつけられることがあって、文句を言われないように音が外にもれないようにして、クラシックを楽しんだものであった。今おおっぴらにヴェートーベンが歌えることの喜びと平和の時代の幸せをも痛感したのであった。それだけであればよかったのだが、丁度その時「東京墨田の第九」のメンバーが多数助演にきており、翌月下旬に国技館でも例年の演奏会がある旨の情報を得た。折角覚えた「第九」を忘れない内に他流試合をこころみようと思ひ、幸い指揮も同じ石丸先生であり、今回の演奏の世話をした生協の企画でツアーを組んでの演奏旅行に参加をした。国技館での演奏は大鉄傘下の5000人の巨大で堂々たる場面。歌い終わった時の感動と興奮は前にも増して素晴らしいものであった。以来すっかり病み付きとなり、二回、三回と回を重ねてきた。ニューヨークのカーネギーホール、シドニーのオペラハウス、ウイーンの楽友協会ホール、ロシアのサンクト

ペテルブルグの音楽協会ホール、ドイツのリューネブルグ、トリアー、コブレンツ、ハンガリーのショプロンなどの「第九」もそれぞれ生涯の思い出に残る素晴らしい体験である。ドイツの公演後のツアー「ライン下り」で高校時代にネイティブのドイツ人教師に習った「ローレライ」を同乗の数人の船客とドイツ語で三番まで歌い、喝采を浴びたことも大きな思い出の一つである。かくして外国での演奏はすでに十数回、一年に二回出演したこともある。これにはひとつのオマケがあり、長年会社人間で女房をほったらかしにしていた償いの意味も多少はあり、二人が動ける間は続けたいと思っているが、今年の春ドイツのボンでツアーから離れ迷子となり、何とかホテルには帰りついたものの、同行の信頼を失っている、すんなりとはついて来るか疑問無しとしない。これにひきかえ国内の演奏は二月の「国技館墨田の第九」を初めとして、「第九」本邦初演の地である阿波の鳴門市の「第九」など年間に五、六回の全国各地の演奏会に北は札幌、南は九州延岡までその時々都合により延べ八十数回ステージに立っている。この場合は自分一人か、数人の福岡の有志のクループと一緒で大体二泊三日の小旅行となり、女房はつ

いてこない。洋楽のレパートリーが「第九」一つだけではというので市内の合唱団にはいり、楽典を習い、クラシックや歌曲の混声合唱にも精を出しており、歌による福祉施設へのボランティア活動もそこそここなしている。

聞けばこの「第九」がEUの国歌に制定されたとか。すると我々はその国の国歌を歌うことにならるのであるのか。どこの国の国歌に決められようとそれは勝手だが、「第九」は人類の共通の財産なのだから、その普遍性はそのことによって、いささかもそこなわれることはないと思う。「第九」おたくの弁であるが、いづれにしても人生残り少ない貴重な時間と金を使い、追っかけよろしく東に西に動き、自己満足に耽っているのは、最早趣味というよりは道楽と言う他は無い。世の中に何の為にはなっていないと思うが、大きな声を出すこと、旅行の為に人々と交流し、その輪がひろがって、毎年の年賀状(400枚)書きに苦闘していることなど、私の元気の元のひとつではないかとなくさめている次第。題して我が道楽記のお粗末である。

「らんざん」に集う

岡 皓一 (昭34年卒)

本年4月、我々昭34年卒の同窓会が京都嵐山の「らんざん」で行われ、短歌を作りました。

はるばると幾年を経て洛西へ

幹事に拾われほつと安堵す

新装の桂キャンパス直裁に

研究棟は未来を指す

総長を勤めし友の揮毫せる

「志者必ずや事成就せむ」

くるわ座に酒酌み交わし語り合う

半世紀前昨日のように

「北酒場」つやある特異な節回し

「細川たかし」とはり合うや友

名残惜し皆打ち揃い斉唱す

「琵琶湖周航の歌」でお開き

新緑の保津峡下り水しぶき

棹とばき良し涼心地良し

上り来て庵「明月記」篝火と

街の光と夜桜も燃ゆ

湾岸の街美しく蘇生せり

メモリアルパーク傷を癒しぬ

同窓会だより

昭和25年クラス会報告

昭和25年卒業の我々は卒業55周年を記念して4月5日に「ホテルグランヴィア京都」でクラス会を開きました。これまでは毎年1回は開いてきたのですが、最近はその老化も進んで集まりも悪くなり、物故者も7人と増えてきたので、「神戸の会」以来3年ぶりに開いたものです。

異常に寒く大雪だった今年の冬も漸く終わり、やっと桜が咲き始めたこの日に全国から15名のクラスメートが6名の奥さんと共に集まりました。物故者を偲んで1分



間の黙祷の後、それぞれの近況報告が始まりました。いわゆる「4修の早生まれ」の橋本君はこのクラスでは最年少ですが、今回55年ぶりに出席したということで、卒業以来、LPガスの販売によって戦後の東京地区の経済発展に如何に貢献してきたかという雄大な報告をしました。しかしその他は平均年齢78歳という老齢化のために、皆どこかに健康不安があり、その対策治療の報告に終わりました。

石田、中山、西岡、藤島のゴルフ組は晴天の京都ゴルフクラブでプレーしましたが藤島は風邪で欠席し、翌日は自由行動ということで、次回の再会を約して解散しました。写真は前列右から大野、東夫人、橋本夫人、西岡夫人、石田夫人、藤島夫人、原夫人、森岡。2列目右から東、橋本、西岡、石田、藤島、原、萩原。3列目右から美間、澤田、中山、柴田、西田(敬称略)です。山田君は遅れて写真に間に合いませんでした。

藤島 啓 (昭25年卒) 記

二六年会

上高地・奥飛騨旅行記

昭和26年卒業同窓会(略称二六年会)は平成17年5月25〜27日、上高地・奥飛騨の旅行を楽しみました。参加者は、奥様を含め24名

(会員16名、奥さま8名)でした。現会員34名ですから、遠出しては良い参加率でしょう。この計画は実は昨年10月だったのですが、昨年中部山岳地帯に大災害をもたらした(今でも高山線は一部不通です)10月20日の台風に遭遇、延期されたものです。今回は昨年と打って変わって好天に恵まれ、素晴らしい山の景色を満喫出来ました。

5月25日12時、関東・中部・関西各方面からJR松本駅前に集合、待機していた岐阜バスに乗り込み「そばどころこばやし」に移動しました。蕎麦は客の顔を見てから始める。蕎麦が出る前に幹事から行程説明と、久しぶりに会った仲間間の談話に花が咲きます。

行程は松本では松本城を見て、^{あがた}県の森の「旧制高校記念館」を見学、上高地には17時頃到着予定。ホテル白樺荘で一泊。26日午前中は上高地を散策して11時出発、安房^{あほう}トンネルを抜けて平湯で昼食、乗鞍スカイライン經由乗鞍山頂^{あがた}頂平(標高2700m)へ、付近散策の後新穂高温泉へ。泊

3日目は朝一番(8時30分発)のロープウェイで標高2156mの西穂高口(千石園地)へ、園地散策の後下山、10時発高山へ。高山グリーンホテルで昼食、高山は素通りして東海北陸道、莊川

IC經由、ダム湖畔の莊川桜を見る。最後は「莊川の里・合掌造り」見学の後東海北陸道・岐阜羽鳥IC經由JR岐阜羽鳥駅到着は16時です。

信州蕎麦を味わった後移動は5分。松本城見学(14時〜15時)5層6階の天主は現存する城としてはわが国最古、国宝の城は姫路・彦根・犬山と、この松本です。階段の傾斜は最大で75度もあろうか? チョットと我々の年齢にはきつかったが半数以上は登ったと思う。体調の都合で登れなかった人も素晴らしい庭園を散策、お互い写真を撮り合っていました。

旧制高校記念館・松本高校校舎は松本城から約3キロメートル、県の森にあります。会員全員が旧制高校の出身、60年前の青春に帰った思いでしょう。旧制高校校舎の内、当時の面影を留めているのは此処だけ、(京都の三高など面影もありません)しかもこの講堂は今も小沢征爾コンサートの練習場所になっているそうです。歌声が聞こえてきました。小林秀雄作曲「落葉松」の合唱、かなりレベルは高いようです。他の部屋もいろんな文化活動に開放されています。記念館を後に愈々目的地上高地へ、国道158号線を梓川に沿って走ります。奈川渡ダムを過ぎて、道はつづら折り、釜トンネル(信号機による交互通行)です。隣に

新トンネル工事中ですが、狭い真つ暗なトンネルです。トンネルを出ると別天地、左に焼岳（標高2445m）がかすかに噴煙を吐いています。そして大正池です。この池は大正四年の焼岳大噴火によって出来た池ですが、最近の噴火で池が狭くなったそうです。上高地は標高1500m、山々と落葉松・白樺など樹々と清流が織り成す原始世界です。

ここで「上高地帝国ホテルでコーヒーが飲めないか」提案があり、立ち寄りしました。駐車場も宿泊客用だけ、出たところ勝負。結果はオーケー。暖炉のある木造のラウンジでのコーヒーはなかなかのものでした。道草を食った為ホテル白樺荘についたのは6時半、此処はホテルと言うより高級山荘と言った感じです。遅れたので「直ぐ食事」と言われ、あわただしい初日でした。

2日目は11時まで自由行動、朝食前に明神池に行く組もありました。幹事は平均的な7時半食事、明神池（又は大正池）コースです。上高地は神が明神池に降りた。つまり神降地だったそうで、此処明神池に穂高神社奥宮があり、浅い池ですが水は清澄そのもの、魚が人を恐れず（上高地は動物も植物も獲ってはいけません）泳いでいるのが見えます。「上高地で明神池

を見なければ」と言われ、行きませんが、やきついでコースでした。11時、一同バスに集合。此処で吃驚、乗鞍スカイライン（5月15日開通したばかり）が昨夜の雪で通行止めだそうです。「兎に角、昼食場所の平湯まで行って考えよう」と出発しました。安房トンネルを抜けると直ぐ平湯、（昔は平湯峠を越すに1時間、信州と飛騨は別の世界でした）

此処での情報。雪はかなりの量で明日も危ないとの事。急遽ホテル新穂高と連絡、「明朝のロープウェイ登頂を今日にする事」にして新穂高温泉に向かいました。これがむしろラッキーでした。（明朝は雲が出て眺望が悪かった）

（次号につづく）
石川 進（昭26年卒）記

昭和30年卒業・50周年同窓会

我々のクラスは5年ごとに関西と関東でクラス会を開催しているが、50年の節目に当たる今回は是非京都で、そして京大時計台記念館の完成や桂キャンパスへの電気系大学院研究科の移転等もあったため、これら新しい施設を是非見学したいという希望も多く、新緑の5月22日、前回に引き続き京都での開催となった。卒業生数61名

中物故者4名で、57名のうち47名のクラスメイトと9名のご夫人の参加があった。これは卒業生総数の77%、生存者数の82%強であり、50周年ということもあるが、この年代としては大変な高出席率である。午後早々に吉田キャンパス時計台に集合し、歴史展示館と総合博物館を見学した後、タクシーで桂キャンパスへ。吉田キャンパスでは京大ならではの展示資料に見入り、また売店で記念に京大グッズを買い求める姿も見られた。桂キャンパスではまず巨大LEDディスプレイに映し出された「歓迎昭和30年卒御一行様・・・」という文字に一同大感激。生憎の小雨で、



桂キャンパスからの京都市街の眺望は今ひとつであったが、休日にもかかわらず松重和美副学長、北野正雄教授のご好意で電気系の建屋内とキャンパスの時計台などのご案内を頂き参加者は大満足であった。その後嵐山渡月亭・松風閣に移動し、大堰川の中洲からの夜景を窓外に見ながらの懇親会となった。顔を合わせると一気に50年前にタイムスリップして旧交を温め、これからの人生に向けてお互い示唆に富んだ話題が飛び交うなど、大満足の一夕であった。翌日は自由行動としたが、10名の参加によるゴルフ会を東城陽GCで開催した。今回現地スケジュールは関西の幹事が担当したが、事前の案内や充実した近況集の作成など、東京側の葉原耕平幹事に依存するところ大であった。今回クラス会のアレンジがスムーズに進んだのはインターネット・電子メールのお蔭である。3分の2の方々との連絡はメールに拠った。その後、秦祐夫君のボランティアでインターネット上にアルバムが設けられ、多くのデジカメの撮影者からの投稿ですでに1000葉近く（6月11日現在）が掲載されている。ヒット数も日々うなぎ上り。50年の間の目覚ましい技術の進歩の一端である。

幹事（50音順、敬称略） 東

京・葉原、魚住 関西・岡田、木村磐、木村隆、中堀、西川、吹沢、福川
葉原耕平、木村磐根 記

昭和35年卒クラス会報告

45周年は琵琶湖、桂へ

昭和35年卒電気、電子クラス会も45周年を迎える事となった。20周年（宇治、花やしき浮舟園）、25周年（箱根、小田急山のホテル）、30周年（京都木屋町、鮎鶴）35周年（箱根、箱根プリンスH）、40周年（京都、全日空H）、そして今回は吉田分校時代にクラス対抗のボート競技で青春の汗を流した琵琶湖に戻ってきた。盛りを過ぎたとはいえ往々春を惜しむがごとき桜に迎えられ、琵琶湖クルーズや石山寺周遊のウォーキングをそれぞれに楽しんだ後4月17日夕刻大津プリンスHに集合した。

20世紀の日本経済の繁栄にエコノミックアニマルの先兵として少なからず貢献したという自負はあるものの、大半はすでに第2、第3の人生に入っており、ダイナーでの近況や関心が極めて多岐に渡る各人のスピーチを楽しみ、38Fラウンジでの二次会では琵琶湖のナイトビューを楽しみながら時の過ぎるのも忘れての青春の懐古、そして翌日は21世紀における世界



の知の新しい殿堂として産声を挙げた誇らしきわが母校桂キャンパスを訪問した。新緑に映える桂キャンパスの正面大スクリーンに浮かび上がった歓迎メッセージと共に、松重副学長を始めとする電気系教室の皆さんの心づくしの歓待により、我ら45周年の同窓会を更なる想い出深いものにしていただいた事にあらためて感謝している。ファイナレは、今が正に旬の筍料理を洛西筍亭で楽しんだ後50周年の再会を約し解散した。

同伴のクラス会が定着

40周年の会合から夫婦同伴での参加を呼びかけ今回も12組の同伴

者を含む56名が全国から集まった。令夫人たちの間にも新しい友情の輪が広がり、会合が一層華やいだものになっている。

アルバムが想い出を倍加

35周年のクラス会から毎回アルバムを作る事も定例化している。腕に自信のあるプロはだしのカメラマン達とPCによる手作りのアルバムは、想い出を倍加し友情の絆を深めてくれるのである。

趣味の会も多彩に

25周年のクラス会から始まった「ゴルフ」はその後年一回のコンペが20年間続いており、今年も10月17日大熱海国際CCで予定されている。関東を中心に「ウォーキング」が年数回催されているし、昨年「スキー同好会」が結成され京大ヒュッテを根城にツアーが定着し始めた。デジタル一眼レフの普及に刺激され「カメラ」の会が最近まとまり、「俳句」の会も準備されだした。関東での「新年会」、関西での「七夕会」もすっきり定着しているしこれらの会合の連絡に我らクラス会専用のHP 35 R A K U Y U が極めて有効に機能している。

The Partners of Our Golden Age

我々は同窓会ごとにその年代に応じたキャッチフレーズをつけて楽しんできたが、今正にGolden Ageに入っている。京都で芽生え

た友情の絆を5年ごとに大事に育んできたクラス会は、これからの人生に彩りを添えてくれるますますかけがえの無い大事な宝になっている。50周年の幹事を引き受けてくれた藤、皆川、北脇、辻(伸)君達のアイデアで今度はどんなドラマが待っているのか今から楽しみに事である。

三浦良和、三木亮爾、新田東平、角忠夫(昭35年卒) 記

本部だより

本部総会報告

平成17年度本部総会は6月18日(土)、東京・目黒の八芳園において、東京支部総会に引き続いて開催され、本・支部会員68名が出席。冒頭、近藤会長に代わり長尾真副会長より、洛友会の活性化には教室との連携強化が必須である旨の挨拶を頂いた後、議題の審議に移った。

先ず始めに木村幹事より、百周年記念事業(cueの編集・発行事務)と洛友会会員管理事務など共通項が多く、今年度より合体する旨の説明が行われ、全員の承認が得られた。(詳細はホームページご参照ください)

続いて平成16年度の事業報告ならびに収支決算書(表(1)ご参照)についても事務局より説明の後、

全会一致で承認された。収入は本年度も学部会費が大幅に減少したが、本年に限り定期預金利息で落ち込みを補った。

百周年記念事業の平成16年度収支決算書(表(2)ご参照)はcueの発行がNo13号1回のみとなった。引き続き平成17年度の事業計画ならびに収支予算案(表(3)および表(4)ご参照)は事務局より説明が行われ、先述の合体を基に一般会計と特別会計として審議され、全会一致で承認された。

次に役員(会長・副会長)の任期満了による改選に先立ち、会則の一部改正案(名誉会長の規定を新設)が上程され承認を受けたので別項掲載の新役員(名誉会長・会長・副会長)が選出された。

また教室から要請のあった推薦会員の方々(別項掲載ご参照)についても承認された。

その他会費納入方法の多様化に関し、従来の郵便局のほかコンビニでも振り込める計画および振込料の会員負担についても承認されたので来年度からの実施に向けた準備に入るようになった。

続いて本年は名簿の発行を見合わせ、より精度の高い会員管理データベースの再構築を優先することとし、今後は役員会の基に編成された洛友会改革のためのWGで検討されるとの説明が行われ

た。

最後に橋先生より教室の近況についての報告があり総会が予定時間内に終了し、講演会・懇親会へと移った。

なお講演会・懇親会については東京支部総会報告をご参照ください。

事務局 記

総会で本部新役員が左記のように決まりました。

名誉会長	近藤文治(元会長)
会長	長尾 真(元副会長)
副会長	三木 弼一(関西支部)
副会長	馬場 征彦(東京支部)
副会長	荒木 光彦(電気系教室・留任)
幹事	松重和美(電気系教室・留任)
幹事	島崎 眞昭(電気系教室)
幹事	木村 警根(名誉教授・留任)
幹事	松本 博(応用科学研究所・留任)



表(3) 平成17年度収支予算 [一般会計]
(平成17年4月1日～平成18年3月31日)

1. 収入の部 (単位 円)			
科 目	予 算 額	平成16年度決算額	備 考
会費(学 部)	7,200,000	7,068,000	2,400名分 (@3,000円/人)
(講習所)	90,000	96,000	30名分 (〃)
預 金 利 子	10	2,880,039	
広 告 掲 載 料	140,000	130,000	会報新年号、14社 (@10,000円)
広告(支部負担)	0	0	
雑 収 入	0	28,702	
収 入 小 計	7,430,010	10,202,741	
前年度繰越金	14,504,422	9,992,376	
合 計	21,934,432	20,195,117	

2. 支出の部 (単位 円)			
科 目	予 算 額	平成16年度決算額	備 考
名簿編集費	0	0	
電算機処理費	0	0	
印 刷 費	0	0	
発 送 費	0	0	
会報編集費	0	0	年間4回発行 4.7月・5.900部
印 刷 費	575,000	586,950	10.1月・3.000部
発 送 費	1,320,000	1,654,032	〃
備 品 費	0	0	
通 信 費	350,000	200,662	切手、電話(ADSL加入料含む)
会員原簿管理費	400,000	394,334	電算機処理費
会 合 費	400,000	426,001	役員会(含む旅費)
総 会 費	300,000	300,000	
集 金 費	200,000	142,700	振込手数料等
消 耗 費	270,000	180,434	振込用紙、封筒等
旅 費	300,000	307,920	支部総会出席旅費等
懇話会補助費	250,000	250,000	
支部交付金	0	0	
事務人件費	1,200,000	1,200,000	応研謝礼
雑 費	30,000	47,662	
予 備 費	2,000,000	0	新システム構築のための準備費用など
支 出 小 計	7,595,000	5,690,695	
次年度繰越金	14,339,432	14,504,422	
合 計	21,934,432	20,195,117	

表(1) 平成16年度収支決算報告書 [一般会計]
(平成16年4月1日～平成17年3月31日)

1. 収入の部 (単位 円)			
科 目	予 算 額	決 算 額	備 考
会費(学 部)	8,040,000	7,068,000	2,356名分 (@3,000円/人)
(講習所)	105,000	96,000	32名分 (〃)
預 金 利 子	10	2,880,039	定期預金満期
広 告 掲 載 料	140,000	130,000	会報新年号13社(@10,000円)
支部負担金	0	0	
雑 収 入	0	28,702	
収 入 小 計	8,285,010	10,202,741	
前年度繰越金	9,992,376	9,992,376	
合 計	18,277,386	20,195,117	

2. 支出の部 (単位 円)			
科 目	予 算 額	決 算 額	備 考
名簿編集費	0	0	
電算機処理費	0	0	
印 刷 費	0	0	
発 送 費	0	0	
会報編集費	0	0	年間4回発行
印 刷 費	575,000	586,950	4月5,600部、7,10月2,650部、 新年号5,900部
発 送 費	1,435,000	1,654,032	
備 品 費	0	0	
通 信 費	160,000	200,662	切手、電話(ADSL加入料含む)
会員原簿管理費	500,000	394,334	電算機処理費
会 合 費	400,000	426,001	役員会(含む旅費)
総 会 費	300,000	300,000	
集 金 費	200,000	142,700	振込手数料等
消 耗 費	450,000	180,434	振込用紙、封筒等
旅 費	300,000	307,920	支部総会出席旅費等
懇話会補助費	250,000	250,000	
支部交付金	0	0	
事務人件費	1,200,000	1,200,000	応研謝礼
雑 費	0	47,662	
予 備 費	0	0	
支 出 小 計	5,770,000	5,690,695	
次年度繰越金	12,507,386	14,504,422	
合 計	18,277,386	20,195,117	

平成17年4月15日、(財)応用科学研究所において領収書、帳簿など関係書類を慎重に監査し、収支決算書が適正であると認めました。
幹事 中村 行宏 ㊟

表(4) 平成17年度収支予算書 [特別会計]
京大電気百周年記念事業
平成17年4月1日～平成18年3月31日

収入の部 (単位：円)		
賛助会費	500,000	企業5社
利息収入	6,000	定期利息
収入合計	506,000	賛助会費等
前期繰越収支差額	35,004,149	
収入合計	35,510,149	

支出の部 (単位：円)		
事業費 Cue刊行費		Cue No.14, No.15印刷各3,000部
印刷費	1,950,000	
発送費	660,000	Cue 2回発行各3,000部 @110
管理費		平成17年4月～平成18年3月
事務委託費	1,200,000	電話・切手代
通 信 費	70,000	
雑 費		
支出合計	3,880,000	
次期繰越収支差額	31,630,149	
支出合計	35,510,149	

表(2) 平成16年度収支計算書 [特別会計]
京大電気百周年記念事業
平成16年4月1日～平成17年3月31日

収入の部 (単位：円)		
賛助会費	500,000	企業5件
利息収入	5,754	定期利息
収入合計	505,754	賛助会費等
前期繰越収支差額	36,711,903	
収入合計	37,217,657	

支出の部 (単位：円)		
事業費 Cue刊行費	967,318	Cue No.13印刷発送費
管理費		平成16年4月～平成17年3月
事務委託費	1,200,000	電話・切手代
通 信 費	46,190	
支出合計	2,213,508	
次期繰越収支差額	35,004,149	
支出合計	37,217,657	

財産目録 (単位：円)		
現金	10,245	
普通預金 みずほ銀行	1,726,724	
三井住友銀行	206,621	
定期預金 みずほ銀行 企業寄付	33,000,000	
郵便貯金	60,559	
資産合計	35,004,149	

平成17年6月10日
上記収支計算書並びに財産目録を確認しました。
署名人 吉 田 進 ㊟

推薦会員

(平成17年6月18日承認)

小林 哲生教授 電気工学専攻

(昭59年 北大、博)

上原哲太郎助教授 電気工学専攻

(平7年 京大、情報工学、博)

工学部情報センター

中村 素典助教授 電気工学専攻

(平6年 京大、情報工学、博)

学術情報メディアセンター

川下 将一講師

付属イオン工学実験施設

(平9年 京大、材料化学、博)

田野 哲助教授 情報学研究科

通信情報システム専攻

(昭63年 京大、分子工学、博)

越智 裕之助教授 情報学研究科

通信情報システム専攻

(平6年 京大、情報工学、博)

新熊 亮一助手 情報学研究科

通信情報システム専攻

(平15年 阪大、通信工学、博)

菅野未知央助手 電子工学専攻

(平15年 京大、材料工学、博)

川畑 弘助手 電子工学専攻(VBL)

(平13年 北大、地球環境科学、博)



7月から洛友会本部のホームページが開設されます。

URLは“http://rakuyukai.org/”です。このURLはこれまで洛友会東京支部のURLでしたが、今後は東京支部も上記のURLでお入り頂き、リンクで東京支部にお入り頂くか、直接“http://rakuyukai.org/tokyo/”でお入り下さい。このホームページでは洛友会本部の改革の情報なども掲載します。

支部だより

四国支部総会報告

5月13日(金)、昨年と同じく高松市内の「全日空ホテルクレメント高松」において、第50回洛友会四国支部総会が開催されました。

本部から木村磐根名誉教授、教室から小林哲生教授の御出席をいただき、四国内からは27名の会員が集まりました。

総会は、武智四国支部長(昭40年卒)の挨拶で始まり、昨今の激震の時代においては、物事

を見極める力が必要とされるとも、危機管理・危機意識を強く持つことが重要であり、洛友会もこの激震の時代を乗り切れるよう、

若い世代を含めて求心力のある魅力ある会にしていきたい、とお話がありました。

次に洛友会本部からお越しになった木村名誉教授から御挨拶をいただきました。

今後の洛友会の運営や改革ビジョンについてご説明いただくとともに、教室と洛友会の関係、洛友会本部と支部の連係の必要性についてもお話をいただきました。

小林教授からは、桂キャンパスの大学院の状況および卒業生・修了生の進路について、設備・風景



などを撮影した写真を、プロジェクトで非常に分かりやすく説明していただきました。

続いて、会務報告の後、近藤先輩(昭28年卒)の乾杯音頭に始まり、先生方や久しぶりの友人と酒を酌み交わしながらの歓談などしているうち、あつという間に予定の時間となり、最後は、恒例となりました「逍遙歌」と「琵琶湖周航の歌」の大合唱で懇親会を締めくくりました。

その後、木村先生・小林先生を始め有志一同は同ホテル21階のバーにて、高松の夜景を眺めながら深夜まで親交を深めました。

段上 玲浩(平8年卒)記

北海道支部総会報告

去る5月14日(土)札幌駅前のセンチュリーロイヤルホテルにて、平成17年度北海道支部総会を開催した。まず、芝山支部長より挨拶ならびに最近の洛友会に関する動向等の報告をいただいた。次に役員人事について、中山道夫氏の副支部長をお引き受けいただくこととし、全員一致で承認された。また、幹事からは前年度会計報告、今年度予算案をご説明し、承認された。

芝山支部長の乾杯のあと、懇親会に移った。今回も昨年と同じ7



名という若干少なめ参加者による開催となったが、今回公立はこれまで未来大学の田田亮教授(昭34年卒)に函館から参加いただいた。上田先生からは現在あるいは将来の京大の電気系教室についてのお話、また函館に移られて6年目になられたということに住まれての感想や北海道に対する提言などもお話いただいた。

支部最長老の88歳の西村正巳氏からは、元気の秘訣は脳の活性に努力することとお話があり、早速一句を「雪氷の道半ば来て梅ひらく」と詠まれた。これは去る3月に低温の研究をされていたご次男が急逝され、その痛むお気持ちを詠まれたとのことであり、心よりお悔やみ申し上げた次第である。

例年のことながら歓談するうちに予定された2時間も知らぬ間に過ぎ、来年の再会を楽しみに会を

お開きとした。

木元 伸一 (平元年卒) 記

九州支部総会報告

平成17年5月20日(金)、福岡市天神の福岡国際ホールにて、平成17年度九州支部総会を開催いたしました。本部から幹事の木村先生をお迎えし、九州支部からは主に福岡在住の会員22名が出席しました。



総会に先立ち、当支部恒例のカクテルパーティーを今年も開催しました。このパーティーは、総会開始30分前から三々五々集まった出席者が、グラスを片手に歓談するといふものです。昨年までは立食形式で行っており、今年は趣向を変え和室で座って歓談を行いました。総会が始まる前から大

盛況でした。

総会は岡支部長の挨拶で始まり、昨年度は予定通りの行事に加えゴルフ会を行ったところ大いに盛り上がったことや、年々悪化している会費納入状況などの洛友会における課題、今年度の抱負などについて述べられました。引き続き、本部幹事の木村先生からご挨拶をいただき、洛友会の今後のあり方検討WGなどの本部の動向についてお話を伺いました。

更に、桂キャンパスの状況などについても、スライドでわかりやすく説明していただきました。日頃なかなか京都へ足を運ぶ機会のない会員にとっては、とても興味深く、また感慨深く感じられました。

また、石井幹事、能見会計幹事から平成16年度活動実績・会計の報告及び平成17年度活動計画の説明を行い、満場一致で承認されました。

懇親会は、増岡先輩(昭21年卒)の乾杯の音頭で始まり、参加者全員酒を酌み交わしながら、終始和やかな雰囲気、昔話や近況報告などに花を咲かせました。

懇親会の中で参加者全員にマイクを回し一言ずつお言葉を頂きましたが、皆様のお話からさまざまなお仕事、趣味などに活動的に取

り組まれることが何えました。中でも参加者の中で最年長の増岡先輩は、合唱のために世界各国を飛び回って日々を送っていたらしく、させられました。増岡先輩には今年の7月号の会報へ寄稿いただけたいことを快諾頂きましたので、精力的な活動について当支部総会に欠席された方及び他支部の方にも会報を通じご紹介頂きたいと思えます。

楽しいひとときもあっという間に過ぎ、深町先輩(昭22年卒)の音頭により万歳三唱で懇親会を締めくくり、最後に全員で記念撮影をしてお開きとなりました。

岡崎 幸治 (平8年卒) 記

中国支部総会報告

平成17年5月31日(火)広島全日空ホテルにおいて第52回目となる平成17年度洛友会中国支部総会が開催されました。総会には本部

から木村先生、教室から高岡先生をお迎えし、中国地方各地から初参加の3名を含む40名の会員の参加をいただき、近年では最大の参加者となり、盛大な総会となりました。

総会は、開会にあたり、池内支部長からご挨拶をいただき、引き続き支部事務局から支部会員異



動状況、支部活動状況を報告、会計決算、予算案、支部役員改選案について説明・提案を行い、出席者全員の了承を得て各案が承認されました。支部役員改選でご承認いただいた細田新支部長からご挨拶をいただき、新役員体制による中国支部の船出となりました。

続いて木村先生から洛友会本部の近況について、また、高岡先生から大学の近況について、それぞれお話しいただき、予定どおり全ての議事を終了しました。写場での記念撮影の後、同ホテル最上階にて、昭和22年卒業で広島工業大学の総長を務められておられる高木先輩のご発声により支部恒例の懇親会を開始しました。ホテル最上階から広島島の夜景を眺

めながら、支部会員の思い出話、近況報告等々、終始和やかな談笑の中で大いに懇親を深めながら会話は進み、最後は、木村先生のご発声で支部懇親会を閉会しました。

山本 武司 (平4年卒) 記

関西支部総会報告

平成17年度の関西支部総会は、平成17年6月5日(日)に京都タワーホテルにて46名の参加を得て開催しました。また、総会に先立ち、「シンガポール・マレーシアのIT事情」と題して講演会を開催しました。

講演会では、松下電器産業(株)の安本吉雄氏(昭49年卒)より、シンガポールとマレーシアの歴史や経済状況の概説や、ICカードの先進的応用事例やマルチメディア研究開発拠点構想などを挙げながら、ITを軸に据えた国家政策や基盤整備の現状についてご講演いただきました。具体的なデータや事例に富んだお話は興味深く、講演の後にも活発な質疑応答がなされ、有意義な講演会となりました。

総会では、三木支部長からの挨拶の後、議事として平成16年度事業報告ならびに決算報告、平成17年事業計画ならびに予算編成、平成17年度関西支部役員改選について審議され満場一致で承認されま

した。平成17年度の新役員は、

- 支部長 森本浩志(昭40年卒)
- 副支部長 市原達朗(昭42年卒)
- 総務幹事 湯川英彦(昭53年卒)
- 会計幹事 津田雅彦(昭58年卒)

また、議事後、本部幹事の木村先生より、本部で進められている洛友会改革の検討状況について、お話をいただきました。

なお、今年の関西支部の家族見学会は10月23日(日)に「保津川下りと桂キャンパス見学」を計画しております。桂キャンパスでは、前総長で情報通信研究機構理事長の長尾真先生にご講演いただく予定です。奮ってご参加下さい。

支部総会終了後は、引き続き懇親会が開催されました。懇親会は、森本支部長のご挨拶、副会長の荒木先生の音頭による乾杯で幕を開け、先生方や会員の方々が旧交を温め、あるいは新たな交友を楽しみながらの、にぎやかな歓談の場となりました。最後は関西支部恒例の「洛友会の歌」を全員で声高らかに斉唱した後、市原副支部長のご挨拶および一本締めと飛び入りの会員有志による三本締めで大きく盛り上がった中でのお開きとなりました。なお、支部総会の模様は関西支部ホームページでも紹介しております。

(洛友会関西支部ホームページ)

http://www.kisweb.ne.jp/rakuyu/

法田雅彦(昭52年卒) 記

ゴルフ競技会報告

第83回関西支部ゴルフ競技会が平成17年5月22日(日)武庫ノ台ゴルフコースにて開催されました。

当日は、時折雨の降るあいにくの天気となったものの、アウトは伊藤氏(昭34年卒)、インは三崎氏(昭40年卒)の始球式でプレイを開始し、合計15名(うちシニアの部3名)が競技に汗を流しました。結果は次の通りです。

(シニアの部)

- 優勝 河崎 達夫(昭34年卒)
- 2位 伊藤 俊一(昭34年卒)
- 3位 森田 宏(昭34年卒)

(一般の部)

- 優勝 西村登努志(昭38年卒)
- 2位 大澤 靖治(昭44年卒)
- 3位 細田純一郎(昭36年卒)

△第84回競技会のご案内▽

平成17年10月22日(土) 於 武庫ノ台ゴルフコース 多数のご参加をお待ちしております。

△連絡先▽

- 関西電力
- 八木 誠(昭47年卒)
- 山田 浩章(平11年卒)
- 050・7104・6062

北陸支部総会報告

平成17年6月11日(土)福井市「かき蒸」において、平成17年度北陸支部総会を開催いたしました。梅雨前線の影響か、うす曇りの蒸し暑さを感じさせる天気でしたが、本部から木村磐根先生、教室から石川順三先生をお迎えし、合計21名により行われました。

冒頭、中嶋支部長の挨拶では、大学の法人化が公立大学においても進んできていること、産学共同研究もさかんになってきているという大学の現状の説明がありました。また、洛友会北陸支部については、今後も活発に活動を進めていきたいので会員の方からの意見を伺いたい、旨の話がありました。引き続き木村先生よりご挨拶が



ありました。会則の改正、会長・副会長の交替、洛友会の改革について説明いただきました。また、今年から施行された個人情報保護法案とのからみで名簿の発行が一年延期されることおよび発行にあたっては会員の皆様の了解を得る必要があるの協力をお願いしたいとのことでありました。また、電気系教室との連携を強化し、その一環として現在教室の情報誌として発行されている「Cue」を会員全員に配布すること、ホームページの新設を計画されていること等についてお話いただきました。

次に石川先生から、電気系教室の近況についてご用意いただいた資料をもとにご説明いただきました。桂キャンパスの近況ということで、生協ヤレストランがこの春にオープンし、桂キャンパスでもようやく生活できる状況になってきたこと、ローム記念館が5月に開館し、産学共同連携の体制が整備されたことなどの話を伺いました。

次に支部幹事のほうから支部近況報告、会計報告、支部役員改選に関する議案が報告され、一部修正の上、承認されました。

総会終了後の懇親会は、先生方や先輩・後輩、友人と酒を酌み交わして、旧交を温めることができ

ました。最後に恒例の道連の歌を合唱し、万歳で散会となりました。

改選された支部役員

- 顧問 森本 芳夫(昭16)
- 西村 尚和(昭23)
- 野村 精二(昭24)
- 支部長 中島 恭一(昭40)
- 副支部長 宮越 政通(昭41)
- 松木 純也(昭44)
- 評議員 堀 英二(昭23)
- 金森 閔治(昭40)
- 柴田 明(昭40院)
- 西念 勉(昭46)
- 安達 正利(昭46院)

幹事 久和 進(昭47)

(新) 野村 保之(昭52)

(新) 小辻 昭宏(昭55)

(新) 林 正則(平5)

中田 和男(昭63年卒) 記

東京支部総会・講演会・懇親会の報告

平成16年6月18日(土)に目黒の八芳園にて東京支部の支部総会・講演会及び懇親会を開催しました。総勢68名による会合となりました。

支部総会は午後2時に馬場支部長による挨拶で始まり、昨今の同窓会活動の状況に関して、特に財政基盤の立て直しが急務になっていく旨の報告がありました。続いて、田村総務幹事から平成



16年度の行事、予算・決算、会計監査結果の報告があり、決算内容が承認されました。さらに、会費納入率の低下、個人情報保護法施行に伴う名簿広告収入の維持の危機という洛友会をとりまく環境の変化を考慮して、今後の東京支部の活動は、低予算を前提に受益者負担を進めていく必要があるとの考え方についてご理解を頂き、その一環として、米寿・喜寿会員への記念品贈呈の廃止を盛り込んだ修正案が説明され、承認されました。引き続き次期役員候補の紹介が行われ、拍手をもって承認されました。

平成17年度の新役員は支部長古濱洋治(昭38卒)、副支部長松本慎二(昭40卒)、総務幹事川上弥(昭61卒)、会計幹事大矢智之(昭62卒)、庶務幹事富岡耕治(昭61卒)、監事 向井利典(昭41卒)の6名です。馬場支

部長は退任に際して、本年度の残課題への心残り、新年度役員への期待、また東京支部活動への会員各位の支援に対するお願いを述べました。

その後、役員交代し、古濱新支部長が、洛友会東京支部財政基盤回復の取り組みに対する意気込みと、そのために必要な若年層の活性化について述べ、具体的には、年次毎の横の繋がりがだけでなく、研究室の縦の繋がりを掘り起こすことに、本部や教室と密に連携をとった活動を行っていく、との挨拶がありました。

続いて、川上新総務幹事より平成17年度の行事、予算計画が説明され、拍手をもって承認されました。また、その後、古濱新支部長より、平成16年度に米寿・喜寿を迎えられた方々(米寿2名、喜寿8名)への祝辞が述べられ、出席されていた米寿の河原様(昭18卒)に会場より暖かい拍手が送られました。以上をもって、平成17年度洛友会東京支部総会閉会となりました。

同日、同会場午後3時10分より、洛友会本部総会、また引き続き午後4時30分より講演会が開催されました。

講演会では、まず、「JAXXA(宇宙航空研究開発機構)の宇宙開発」と題して、前JAXXA理事、

SCAT(テレコム先端技術研究支援センター)顧問の古濱洛友会東京支部新支部長(昭38卒)を講師として講演を行いました。JAXXAの成り立ちから、最近の衛星打ち上げ成功の偉業に関する話題、また最新の地球観測衛星による観測データの紹介まで、日本の宇宙開発事業の最前線のお話を頂きました。また、続いて、JAXXA経営企画部長 小澤秀司氏をお招きして「JAXXA長期ビジョン」と題してご講演を頂きました。JAXXAの基本理念と使命、国の政策としての宇宙開発の重要性の話題からはじまり、2025年までを視野に入れた壮大な宇宙開発ビジョンを紹介頂きました。いずれもビデオ映像の紹介を含む、たいへん興味深いプレゼンテーションで、講演終了にあたっては、参加者一同の感謝の拍手で会場が沸きました。



午後6時前より恒例の懇親会に移りました。池上前洛友会本部副会長の乾杯ご発声で始まった懇親会は、最高齢の昭9年卒市村様から、最年少平8年卒松原様(奥様同伴での参加)まで、多彩な参加者の交流の場となりました。料理を囲んで会員の方々の談笑が広がるなか、本会合で最も多数の参加者があった昭46卒業年次を代表して、成松様と宇治様からの挨拶を頂くと共に、若手参加者を代表して藤井美千子様(昭61卒)からスピーチを頂きました。閉会にあたり、大矢新会計幹事(昭62卒)を中心として、恒例の琵琶湖周航の歌の合唱を行い、最後は古濱新支部長の中締めにより午後7時30分に散会いたしました。

暑中お見舞い申し上げます。地球温暖化の影響かどうか、年々暑さが厳しいように感じられます。今年5〜7月にかけて全国9支部にて総会が開かれ、洛友会活動の活性化への取組みが感じられました(本文支部だよりご参照)。

本部総会は6月18日(土)開催され、別項報告のとおり、会則の一

編集後記

部改訂により、近藤文治会長が名誉会長として、また新会長には長尾真副会長が選出されました。長尾新会長には次号(10月号)にご挨拶を記載して戴く予定です。また多くの会員から要望のあった洛友会の「ホームページ」がいよいよ開設となります(詳細は紙面参照)。

事務局 記

計報

講昭4	中山信一郎	16・12・4
講昭5	小野 楠広	17・3・21
昭10	中沼 保三	17・3・29
昭12	今井 正善	17・2・3
昭13	平野 進	16・10・27
講昭14	落合 幸民	17・1・26
昭14	高田 孝一	
講昭15	大島 弘	17・3・18
昭16	大塚 恭二	17・4・1
昭16	河辺 一	17・4・29
昭16	山田 健一	17・2・17
昭19	渡部 浩	16・10・20
昭19	岡本 孝治	17・1・23
昭19	清水 道隆	17・5・29
昭28	平田 省三	17・2・10
昭32	井上 慧	17・4・1
昭37	小栗 一彦	17・2・23
昭37修	中西順一郎	17・3・
昭41	武市 宣之	16・11・26
昭53修	木村 祐司	16・5・21

以上の方々がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。